

イラクの地方議会選挙

平成 21 年 2 月 6 日

大野元裕

先月末、イラクにおいて戦後二度目の地方議会選挙が実施された。地方議会選挙法に基づき実施された今回の選挙には、イラクの全 18 県の内 14 県が参加し、選挙に際しては日本からの 5 名を含む国際的な選挙監視団が監視に努めた。安定したとは言えない中で米軍削減を迎えつつあるイラクにおいて、今回の選挙は少なからず重要な意味合いを有していたように思われてならない。なお、筆者はイラクの行政単位を「県」としているが、これはオスマーン朝時代の「Wilaya」を「州」と訳す慣習があり、モースル州、バグダード州、バスラ州が存在したために、「Mufahadha」を「県」として区別していることによる。

1. 選挙のシステム等

(1) 全体的システム

投票は、政党の名前が書かれた用紙に政党もしくは候補者をチェックする秘密投票で実施され、政党は 3 名以上の県別のリストを作り選挙活動を実施した。前回と異なるのは、個人に対しても投票できるようになったこと及び女性の取り扱いである。前回は 25%以上の女性議員を保証したが、今回は 3 分の 1 以上の女性をリストに載せるという形に改められた。この場合、政党はリストの下位に女性を集中させることができるようになり、女性の参加という意味では後退だという指摘もなされた。また、治安上の懸念が比較的低下したことから、候補者の名前を出して選挙活動をしなくても暗殺の危険性が減じ、選挙は公に名前を出して実施された。有権者は、配給表等を提示して事前に有権者登録を実施し、名簿に記載された氏名を確認し、投票後には青いインクを指につけて投票済みとする方法が今回も採用された。

(2) 概要

今回の選挙は 18 県の内 14 県において、総計 440 議席をめぐる 14,000 名の候補者が立候補した。投票率は 51%と、予測されたよりも低かった。イラク独立高等選挙委員会が実施する開票は 5 日の第一次発表の後、正式発表が予定されている。

2. 選挙の意義

今次選挙は、主として以下のような意義があったものと考えられる。

(1) 安全で円滑な選挙の実施

今回の選挙は、相対的に安全に選挙が実施された。今回の地方議会選挙に際しては、投票所付近で爆弾が発見されたり、5 名の候補者が殺害されたりと問題も発生したが、これまでの選挙と比較すれば、はるかに安全に選挙が実施されたと言えよう。前回の選挙のように、投票ができない投票所があったり、どの時間帯に行けば襲われにくいのかという噂が回

ったり、あるいは安全のために早い時間に投票所が閉まることがあったような状況と比較すれば、有権者のために投票時間が1時間繰り下げられた今回は全く異なった。不安視されたニノワ、ディヤーラ等の県でも大きな事件は発生しなかった。実際に相対的な安全が確保されたことよりも、治安が改善したという印象を国民に広く誇示できたことは大きな成果であったと言えよう。

また、投票所で候補者の名前がなかったり、投票所の案内が十分ではない、あるいは選挙違反があったとの主張も一部にあるが、国連は選挙結果に重大な影響を及ぼす不正はなかったとしており、全体的に円滑な選挙であったと考えられよう。

(2) 国民参加

前回の総選挙はほとんどのスンニー派政党がボイコットし、地方議会の議席バランスが宗派・民族と比較すればアンバランスになった等の現象が見られ、その後の政治的問題につながり、あるいは宗派・民族対立を煽る要因の一つとなった。今回の選挙は主要な政党がほぼすべて参加する初めての選挙となり、国民の多くは戦後初の民主主義への参加を実感することになった。

その一方で投票率が低い一因には、国民の中に選挙参加への失望もあったように思われる。たとえばイラク・イスラーム最高評議会（SICI）のような宗教政党による統治に期待して前回の選挙まで彼らを支持しながらも安定や生活の向上が実感できない人々は、宗教指導者による宗教政党への投票呼びかけがありながら、SICIに投票することを躊躇し、あるいは強引な政策を進めるマーリキー首相支持表明に転向することも潔しとしなかったのではないか。

主だった政党の参加と治安の懸念低下による国民参加が同時並行的に実現したことにより、現在のイラクの宗派・民族比率に比較的相応で、且つ部族色の強い地域では部族系勢力が伸長する等、地方議会選挙結果は、それぞれの勢力図がある程度国民に納得できる形で出されたようにも思われる。

(3) 政治家の実績への評価

イラクの安定を一定程度進展させて実績を強調し、重要なメディア等を握って広報戦略を遂行できたマーリキー首相のダアワ党および首相が支持する友愛党（ハドバ）に対する評価は高かったようだ。その一方で、地方行政を任されても実績がでなかったと受け止められたSICIへの支持は低くとどまったようであった。

イラクの歴史は常に中央と地方のせめぎ合いであるが、中央で権限を有する首相の政党が地方で一定の支持を受けることは、ある意味での安定に貢献することは確かであろう。また、さまざまな問題が残る中で、今回の選挙では争点を暴力ではなく、民主的に争ったことは評価できる。

3. 選挙の評価

5日、開票率90%の段階で独立高等選挙委員会は第一次暫定結果の発表を行った。この

段階での発表は、前回の国会選挙の際とほぼ同じペースである。なお、前回の国会選挙では、最終発表までに1か月以上を有した。第一次暫定発表の結果は以下のとおりである（右側のコメントは筆者が付したもの）。

表1：各県での政党別得票率

ニノワ			サラフ・ツィディーン		
Al-Hadbaa National List	48.4%	首相支援のスニ部族系	Salahuddin Accordance Front	14.5%	イスラーム党
Brotherhood Ninawa	25.5%	KDP+PUK他	Iraqi list	13.9%	INA等世俗派
Islamic Party	6.7%	イスラーム党	National Iraqi Project Gathering	8.7%	合意戦線
Turkman Front	2.2%	トルコマン戦線	Group of Iraq Educated and Scientists	6.0%	
Iraqi Project Gathering	2.6%	合意戦線	State of Law	3.5%	ダアワ党(マーリキー)
Al-Mehrab Martyr List	1.9%	SICI	アンバール		
Iraqi list	1.8%	INA等世俗派	National Iraqi Project Gathering	17.6%	合意戦線
ディヤラ			Iraq Awakening Coalition	17.1%	イスラーム党+部族
Accordance Front	21.0%	イスラーム党	Tribes and Educated Coalition	15.9%	
Kurdistan Alliance	17.2%	KDP+PUK他	National Movement for Development	7.8%	
National Iraqi Project Gathering	15.0%	合意戦線	Iraqi list	6.6%	INA等世俗派
Iraqi National List	9.5%	INA等世俗派	バグダード		
State of Law	6.0%	ダアワ党(マーリキー)	State of Law	38.0%	ダアワ党(マーリキー)
バーベル			Independent Free Movement List	9.0%	サドル勢力
State of Law	12.5%	ダアワ党(マーリキー)	National Accordance Front	9.0%	合意戦線
Al-Mehrab Martyr List	8.2%	SICI	Iraqi National Front	8.6%	世俗派
Independent Free Movement List	6.2%	サドル勢力	National Iraqi Project Gathering	6.9%	合意戦線
Reform Movement/al-Jaafari	4.4%	ダアワ党(ジャアファリー)	Al-Mehrab Martyr List	6.9%	SICI
Iraqi Commission	4.1%	世俗系/NGO	カルバラ		
ワシト			Youssef Mohammed al-Haboubi	13.3%	
State of Law	15.3%	ダアワ党(マーリキー)	Al-Rafidain List	8.8%	アッシリア系
Al-Mehrab Martyr List	10.0%	SICI	State of Law	8.5%	ダアワ党(マーリキー)
Independent Free Movement List	6.0%	サドル勢力	Independent Free Movement List	6.8%	サドル勢力
Iraqi list	4.6%	INA等世俗派	Al-Mehrab Martyr List	6.4%	SICI
Iraqi Constitutional Party	3.9%	ボーラーニー内相	ナジャフ		
ジ・カール			State of Law	16.2%	ダアワ党(マーリキー)
State of Law	23.1%	ダアワ党(マーリキー)	Al-Mehrab Martyr List	14.8%	SICI
Independent Free Movement List	14.1%	サドル勢力	Independent Free Movement List	12.2%	サドル勢力
Al-Mehrab Martyr List	11.1%	SICI	Loyalty to Najaf	8.3%	Adnan al-Zurqi
National Reform Movement	7.6%	ダアワ党(ジャアファリー)	Reform Movement/al-Jaafari	7.0%	ダアワ党(ジャアファリー)
Independent Dhi Qar Union	2.2%		ミーサーン		
カーディシーヤ			State of Law	17.7%	ダアワ党(マーリキー)
State of Law	23.1%	ダアワ党(マーリキー)	Independent Free Movement List	15.2%	サドル勢力
Al-Mehrab Martyr List	11.7%	SICI	Al-Mehrab Martyr List	14.6%	SICI
Reform Movement/al-Jaafari	8.2%	ダアワ党(ジャアファリー)	Reform Movement/al-Jaafari	8.7%	ダアワ党(ジャアファリー)
Iraqi list	8.0%	INA等世俗派	Fadhila	3.2%	ファディーラ党
Independent Free Movement List	6.7%	サドル勢力	バスラ		
ムサンナー			State of Law	37.0%	ダアワ党(マーリキー)
State of Law	10.9%	ダアワ党(マーリキー)	Al-Mehrab Martyr List	11.6%	SICI
Al-Mehrab Martyr List	9.3%	SICI	Unity and Justice Gathering	5.5%	独立系・2008年8月設立
Al-Jourhour List	7.1%		Independent Free Movement List	5.0%	サドル勢力
National Reform Movement	6.3%	ダアワ党(ジャアファリー)	Islamic Party	3.8%	イスラーム党
Independent Free Movement List	5.5%	サドル勢力	Fadhila	3.2%	ファディーラ党
左から政党登録名、獲得票割合、中央政治の政党名等			Patriotic Iraqi List	3.2%	INA等世俗派

(1) マーリキー首相系の躍進

今回の地方議会選挙において目立つのは、マーリキー首相のダアワ党の躍進であろう。分裂を繰り返した結果、マーリキー首相のダアワ党は現在、国会の280議席のうち6議席しか抑えられていない。その一方で米軍削減を前に、「米軍なきあとのマーリキー」がどうなるのかは、イラクの今後を占う上で極めて重要になっていた。このような中で治安回復の手腕を強調し、うまく広報戦術を進めてきたマーリキー首相は、思い以上に多くの議席

を獲得できたということができよう。また、当初から支援を表明してきたニノワ県の友愛党のみならず、当面のライバルである SICI に対抗するために、サドル勢力との連立の可能性も示唆しており、これらを加えると、14 県中 11 県で第一党となることが見込まれる。

しかしながら、強引な手法を繰り返してきたマーリキー首相に対する批判も強く、投票に行かなかった人々の中にもかかる批判は強いものと考えられる。また、上述の連立が実施に移されても、首相系の連合が議席の過半数を占める県はなく、必ずしも地方を抑えたといえるまでには至っていないことにも留意する必要がある。

なお、これらの連合の行方にもよるが、選挙の結果、再び「イラク・ファースト派」と「宗派・民俗・ファースト派」がしのぎを削る状況が現れるようにも思われる。政治舞台でこれらは、「イラクの統一強化」と「連邦制導入」に分かれるが、1 月には南部でシーア派独立地域の設立を主張する SICI がバスラ県を憲法に基づき「地域」に昇格させるべく、住民投票を実施しようとして、十分な署名を集められずに失敗した。この背景には、宗派・民族・ファーストの主張への警戒感と共に、イランの影響力伸長への懸念が存在すると考えられ、今後のイラクの将来に向け、注視すべき展開があったとみるべきであろう。

(2) スンニー派政党の躍進

前回の総選挙においては、イスラーム党以外のスンニー派政党は選挙をボイコットした。今回の選挙においては、既存のスンニー派政党に加え、カーイダに対抗して米軍が雇用した民兵組織であるサフワ運動を基盤とした新政党が参画した。このことにより、スンニー派が多数派を占める諸県でスンニー系政党が躍進した。前回の地方選挙と比較し、以下の通り比較が可能である。なお、届け出のリストの枠組み等が異なるため、この表は必ずしも正確に比較を可能にさせてはいないので、あくまで参考にとどめていただきたいが、クルド系を黄色、スンニー系を緑、シーア系を青に色分けしてある。

表 2：県別の地方選挙得票率比較

県名/グループ名		クルド (KDP+PUK)	友愛党	サドル勢力	ダアワ党 (マーリキー)	SICI	ファデーラ	INA+共産党	イスラーム党	合意戦線	ダアワ党 (ジャアファリー)	その他	県知事 排出政党
ニノワ	05年	75.6%				12.2%			4.9%			7.3%	
	09年	25.5%	48.4%			1.9%		1.8%	6.7%	2.6%		2.2%	
サラフ・ツェディーン	05年	19.5%		4.9%	7.3%				7.3%			61.0%	
	09年	14.5%			3.5%			13.9%		8.7%		6.0%	
ディヤーラ	05年				48.8%				34.1%			17.1%	SICI
	09年	17.2%			6.0%			9.5%	21.0%	15.0%			
アンバール	05年								70.7%			29.3%	
	09年							6.6%	17.1%	17.6%		23.7%	
バグダード	05年			2.0%	21.6%	54.9%	11.8%	3.9%				5.9%	SICI
	09年			9.0%	38.0%	6.9%		8.6%		15.9%			
バーベル	05年											100.0%	
	09年			6.2%	12.5%	8.2%		4.1%				4.4%	
ワースト	05年			75.6%	9.8%				4.9%			9.8%	サドル派
	09年			6.0%	15.3%	10.0%		4.6%				3.9%	
カルバラ	05年					51.2%	12.2%					36.6%	SICI
	09年			6.8%	8.5%	6.4%						22.1%	
ジ・カール	05年				26.8%		26.8%	9.8%			24.4%	36.6%	SICI
	09年			14.1%	23.1%	11.1%						9.8%	
ナジャフ	05年				46.3%	4.9%		7.3%				41.5%	SICI
	09年			6.7%	16.2%	11.7%		8.0%			8.2%		
カーディシーヤ	05年			7.3%	4.9%	48.8%	7.3%	7.3%			7.3%	24.4%	SICI
	09年			6.7%	23.1%	11.7%		8.0%			8.2%		
ミーサーン	05年			36.6%	2.4%	14.6%	9.8%				12.2%	36.6%	サドル派
	09年			15.2%	17.7%	14.6%	3.2%				8.7%		
ムサンナー	05年				9.8%	19.5%	14.6%	12.2%				43.9%	ダアワ党
	09年			5.5%	10.9%	9.3%					6.3%	7.1%	
バスラ	05年				7.3%	48.8%	29.3%	9.8%				4.9%	ファデーラ
	09年			5.0%	37.0%	11.6%	3.2%	3.2%	3.8%			5.5%	

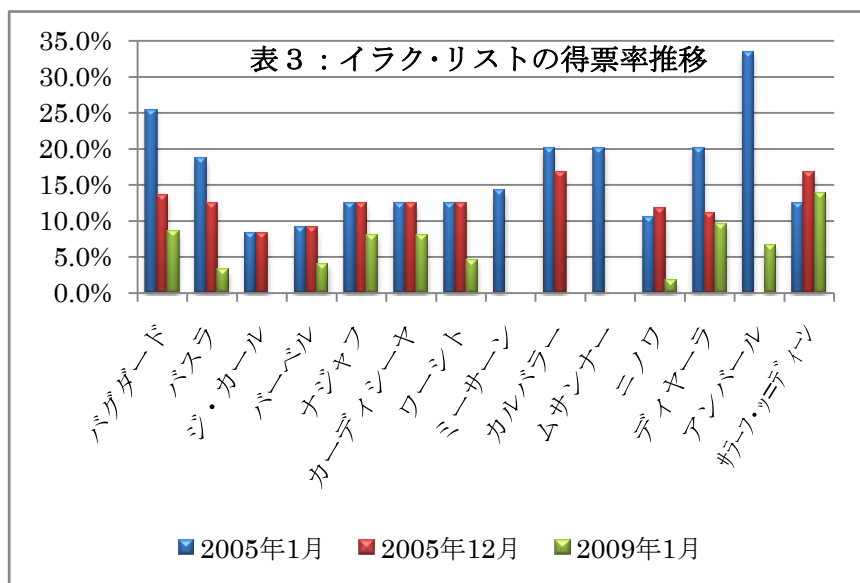
スンニー派が主流を占める地域で逆に獲得票を減らしたのは、人口に比して多くの議席を獲得してきたクルド系およびシーア派系政党であることが見て取れる。また、イスラーム党は大幅に票を減らす可能性も指摘されてきたが、部族勢力を取り込むことにより、一定の得票を維持したようである。他方、アンバール県では、取り込むことのできなかつた部族勢力が選挙の不正を理由にイスラーム党を敵視しており、武力衝突も辞さない構えを見せており、注意を要する。

(3) 宗派・民族対立の行方

イラクにおける宗派・民族対立はいまだに解消したとは言えない。問題を先送りしている中でも、重要になりそうなのは、キルクークの帰属である。今回の選挙に際しては、クルド地方議会を有するクルド地区に加え、キルクークの所在するタアミーム県の議会選挙が先送りされた（クルド地方選挙は5月に予定されている）。巨大油田のあるキルクークに対しては、クルド人、アラブ人、トルコマン等が領有を主張しており、潜在的な係争地になっているが、クルド側は、憲法140条（07年末までにキルクークの帰属を決める住民投票を実施する条項で、現在まで未実施）にしたがい、住民投票を実施して県議会選挙をおこなえばいいと主張していた。これに対してアラブ人等は、今の状況で住民投票を実施すれば混乱は必至であり、とりあえず民族別にクォータを決めたうえで、県議会選挙を実施するよう提案した。これにクルドが反発し、地方議会選挙法の制定が遅れ、昨年10月に実施するはずの選挙自体が1月にまでずれ込んだうえに、タアミーム県の選挙は当面先送りされた。タアミーム県の帰趨については3月末までに合意に達することになっているが、問題の解決は容易ではなく、今後は民族対立に焦点があたる可能性が高まっている。

一部の報道等では、国民は宗派・民族対立に嫌気がさしており、宗教政党の後退および世俗政党の躍進が顕著とされている。確かに国民は宗派・民族対立に嫌気がさしているが、世俗政党の躍進とまで断言はできないようにも思われる。前回の選挙に参加しなかったス

ンニー派世俗系政党が票を伸ばしたり、部族色の強い政党が躍進したのは事実ながら、世俗政党として代表的なイラク国民合意（INA）等の連合であるイラク・リストは、票を伸ばしていないばかりか、過去2回の選挙と比較しても得票率を後退



させているのである（表 3 参照）。

（4）今後の不安材料

イラクの地方議会選挙は総論として成功であったように思われる。しかしながら、前述の不安材料に加えて、まだいくつかの不安材料が残っている。第一に、マーリキー首相が選挙での勝利に乗じて、これまでと同様あるいはそれ以上に強硬に出る場合、それに対する反発がどうなるか。第二に、イランの影響力強化に向けた巻き返しがあるのか。第三に、地方選挙は国政に直接影響しないとしても、今後の政治的連立等にいかなる影響を及ぼすか。そして第四に、敗北した政党が治安を含む権限を円滑且つ平和的に勝者に対して渡していくのか。特に、現在の県知事が第一党の手に渡る場合、すべての県で県知事が変わる状況にある中では、この問題は小さくない（表 2 ご参照）。